

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	水辺環境論実習 [Practice of Riparian Environmental Conservation]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710079	授業形態	実習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	中野 光謙			学位授与の方針 との関連	DP2(1)		
授業概要	<p>本実習の目的は、学生達が野外調査に必要な技術を習得し、水辺における生物の生息状況と、生物と環境条件との関係を明らかにすることができるようになることです。また、水辺の環境問題を自分で発見し、具体的な調査計画を作成して解決策を考案することができるようになることも目的とします。</p> <p>都城キャンパスの周辺にある河川、水田、水路等の水辺において、動物(魚類、貝類、甲殻類、両生類等)の生息状況と環境条件の調査を行います。また、収集したデータを集計し、統計学的な検定を行います。さらに、調査・解析結果を科学的な報告書としてまとめたり、パワーポイントを使用して発表したりします。</p>						
関連する科目	水辺環境論、環境緑地論、環境調査及び再生論、ピオトープ論、環境緑地論実習						
授業の進め方と方法	キャンパス周辺の水辺において調査を行い、室内でデータの解析と報告書の作成を行います。野外調査のときは服装が汚れると予想されるので、各自で対策してください。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 本授業の流れを理解し、野外調査時の安全管理等について学びます。</p> <p>第2回 野外調査(1)河川での調査 第3回 野外調査(2)河川での調査 第4回 野外調査(3)水田での調査 水辺で環境要因と生物の調査を行います。</p> <p>第5回 調査計画の作成 第6回 野外調査(4) 第7回 野外調査(5) 第8回 野外調査(6) 第9回 野外調査(7) グループに分かれて調査を計画・実施します。</p> <p>第10回 データの解析実習(1) 第11回 データの解析実習(2) 調査で取得したデータを分析します。</p> <p>第12回 科学的な報告書の作成(1) 第13回 科学的な報告書の作成(2) 第14回 科学的な報告書の作成(3) 第15回 調査結果のプレゼンテーション 調査結果を報告書としてまとめ、発表します。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然環境を対象とした生態学的な野外調査の手法を習得する【職業知識・技能の育成、汎用的技能の育成】。</li> <li>2. 生物と環境条件との関係を明らかにするための科学的な方法を習得する【汎用的技能の育成】。</li> <li>3. 自然環境問題を自分で見つけ出し、解決策を考案するための思考力を養う【統合的な学習経験と創造的思考力の育成】。</li> </ol>						
授業時間外の学修	<p>予習と復習については授業中に口頭で指示します。なお、授業時間内に報告書とプレゼンテーションの作成を完了することができなかった場合は、授業時間外に作業することがあります。</p>						
課題に対する フィードバック	レポートは評価後に返却し、解説を行います。			評価方法	受講態度(60%)、報告書(20%)、プレゼンテーション(20%)の配点で評価します。		
テキスト	なし						
参考書	『フィールドワーク心得帖 新版』滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会 著(サンライズ出版)						
備考							